

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	国語	科目名	論理国語
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライ）		単位数 2
使用教科書	新編 論理国語		出版社 大修館書店
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</li> <li>・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>・言葉が持つ価値への認識を高めるとともに、生涯に渡って読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ul>		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の特徴や使い方について理解を深め、適切に使うことができる。</li> <li>・文章に含まれる情報の扱い方について理解を深め、適切に使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況</li> <li>・授業ファイル</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・課題</li> </ul>
	技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題</li> </ul>
	思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」について、題材の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。</li> <li>・「読むこと」について、文章の構造や内容の把握、批判的解釈、書き手の意図や関連する資料を踏まえた解釈、考えの形成・共有を適切に行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況</li> <li>・授業ファイル</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・課題</li> <li>・レポート</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉が持つ価値への認識を深めようとする。</li> <li>・読書に親しみ、自己を向上させようとする。</li> <li>・我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況</li> <li>・授業ファイル</li> <li>・課題</li> <li>・レポート</li> </ul>
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示をよく聞き、主体的に「読む」、「書く」、「話す・聞く」。</li> <li>・不明な箇所や疑問点は、積極的に質問する。</li> <li>・授業ファイルを管理する。空欄やプリントの紛失がないように気をつける。</li> <li>・課題や小テストに計画的に取り組む。提出期限を必ず守る。</li> <li>・定期考査に向けて学習を行う。</li> </ul>			

## 年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 1. 「自己を見つめて」 ・「探究する力」(竹内薫) ・「補助線を引きながら考える」(鷺田清一) ・自分を客観的に見つめよう	予定	17
	第2回 2. 「思考を深める」 ・「和の思想、間の文化」(長谷川権) ・「ミロのヴィーナス」(清岡卓行) ・根拠を吟味しよう	予定	14
後期	第3回 4. 「視点を変えて」 ・「人類の進化から考える『心』の誕生」(長谷川真理子) ・「クオリアと心」(西垣通) 5. 問いを深めて書く	予定	8
	第4回 6. 「現代を考える」 ・「政治の本質」(橋爪大三郎) 7. 「未来に目を向けて」 ・「エネルギー耕作型文明への転換」(槌屋治紀)	予定	12
備考			

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	国語	科目名	国語表現
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライ）		単位数 3
使用教科書	国語表現		出版社 大修館書店
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</li> <li>・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</li> <li>・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯に渡って読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。</li> </ul>		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解することができる。</li> <li>・言葉の特徴や使い方について理解を深め、語彙を豊かにし、適切に使うことができる。</li> <li>・言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況</li> <li>・授業ファイル</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・課題</li> </ul>
	技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」について、話題の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成、表現・解釈、意見の共有、話し合い活動を適切に行うことができる。</li> <li>・「書くこと」について、題材の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況</li> <li>・授業ファイル</li> <li>・定期考査</li> <li>・課題</li> </ul>
	思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」について、話題の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。</li> <li>・「書くこと」について、題材の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況</li> <li>・授業ファイル</li> <li>・課題</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉が持つ価値への認識を深めようとする。</li> <li>・読書に親しみ、自己を向上させようとする。</li> <li>・我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況</li> <li>・授業ファイル</li> <li>・課題</li> </ul>
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示をよく聞き、主体的に「読む」、「書く」、「話す・聞く」。</li> <li>・不明な箇所や疑問点は、積極的に質問する。</li> <li>・授業ファイルを管理する。空欄やプリントの紛失がないように気をつける。</li> <li>・課題や小テストに計画的に取り組む。提出期限を必ず守る。</li> <li>・定期考査に向けて学習を行う。</li> </ul>			

## 年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数		
前期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「4 自己PRと面接」</li> <li>①自分を見つめて</li> <li>②効果的な自己PR</li> <li>③将来の自分を考えよう</li> <li>・漢字、語句、敬語、表記のきまり</li> </ul>	予定	26
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「4 自己PRと面接」</li> <li>④志望理由を書こう</li> <li>⑤自己推薦書や学修計画書を書く</li> <li>⑥面接にチャレンジ</li> <li>・漢字、語句、敬語、表記のきまり</li> </ul>	予定	15
後期	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「4 自己PRと面接」</li> <li>⑥面接にチャレンジ</li> <li>・「5 メディアを駆使する」</li> <li>①通信文を書き分ける</li> <li>②電話を使いこなす</li> <li>③電子メールを活用しよう</li> <li>・漢字、語句、敬語、表記のきまり</li> </ul>	予定	18
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「6 会話・議論・発表」</li> <li>①相手や場面に応じた会話</li> <li>・「3 小論文・レポート入門」</li> <li>①小論文とは何か</li> <li>②反論を想定して書く</li> <li>③文章を読み取って書く</li> <li>・漢字、語句、敬語、表記のきまり</li> </ul>	予定	15
備考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	地理・歴史	科目名	日本史探究
学年(コース)	第3学年（普通コース）		単位数 2単位
使用教科書	精選日本史探究	出版社	実教出版
目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・わが国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料からわが国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	・学習プリントの取り組み ・小テストの成績 ・定期考査の成績
	技能	・わが国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	・学習プリントの取り組み ・定期考査の成績（資料読解や論述問題など）
	思考判断表現	・わが国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	・授業に対する姿勢 ・忘れ物（タブレットの充電を含む） ・課題の提出
	主体的に学習に取り組む態度		
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、授業を積極的な姿勢で受ける心構えを持ちましょう。教材を忘れることが無いように、前もって準備をしておこう。</li> <li>・内容に疑問点が出てきたら、歴史に対する興味や関心が出てきている証拠なので、その解決のために遠慮なく質問したり、自分で調べてみたりしましょう。</li> <li>・課題やプリントは必ず提出期限日を守って提出すること。</li> </ul>			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 第2編 中世の日本と社会 第3章 中世社会の成立 (18) 地頭・御家人と荘園制の変質 (19) 鎌倉時代の経済・産業と自然環境 (20) モンゴル襲来と日宋・日元交流 (21) 社会の変動と鎌倉幕府の滅亡 第4章 中世社会の展開 (22) 南北朝の内乱 (23) 足利義満と室町幕府 (24) 東アジアの海をゆきかう人々 (25) 惣村と一揆	予定	15
	第2回 (26) 戦国時代の幕あけ (27) 室町・戦国時代の流通経済 (28) 戦国時代の政治と社会 第5章 統一政権の成立 (29) 「南蛮」との出会い (30) 織豊政権の全国統一	予定	14
	第3回 (31) 東アジアの変動と豊臣政権 (32) 江戸幕府の支配のしくみ (33) 江戸時代の対外関係 (34) 身分制と村・町の生活 (35) 幕府政治の転換 (36) 産業の発展	予定	8
	第4回 (37) 交通網の発達と都市の繁栄 (38) 徳川吉宗・田沼意次と財政問題 (39) 商品経済の発達と民衆の運動 (40) 寛政の改革と欧米諸国の日本接近 (41) 江戸時代後期の学問・分化	予定	9
後 期			
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「涵養（かんよう）」とは？ → 水が自然に染みこむように、無理をしないでゆっくりと養い育てること。</li> <li>・共通テスト「日本史探究」を受験する生徒は、個別対応も実施します。</li> </ul>		

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	公民	科目名	政治・経済
学年(コース)	第3学年（選択）	単位数	2単位
使用教科書	最新政治・経済	出版社	実教出版
目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	・学習プリントの取り組み ・小テストの成績 ・定期考査の成績
	技能	・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	・学習プリントの取り組み ・定期考査の成績（資料読解や論述問題など）
	主体的に学習に取り組む態度	・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	・授業に対する姿勢 ・忘れ物（タブレットの充電を含む） ・課題の提出
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、授業を積極的な姿勢で受ける心構えを持ちましょう。教材を忘れることが無いように、前もって準備をしておこう。</li> <li>・内容に疑問点が出てきたら、興味や関心が出てきている証拠なので、その解決のために遠慮なく質問したり、自分で調べてみましょう。</li> <li>・新聞やニュースに目を通し、時事問題への関心を高めよう。</li> </ul>			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第2部 現代の国際政治・国際経済 第1編 現代の国際政治 (1) 国際社会と国際法 (2) 国際社会の変化 (3) 国際連合と国際協力 (4) こんにちの国際政治 (5) 人権・民族問題	予定	15
	(6) 軍拡競争から軍拡へ (7) 日本の外交と国際社会での役割 第2編 現代の国際経済 (1) 貿易と国際収支 (2) 外国為替市場のしくみ (3) 第二次世界大戦後の国際経済	予定	14
	(4) 国際経済の動向 (5) 新興国の台頭 (6) 経済のグローバル化と ICT でかわる世界経済 (7) 発展途上国の課題と展望 (8) 地球環境問題、資源エネルギー問題 (9) 経済協力と日本の役割	予定	8
	第3編 国際社会における諸課題の探究 (1) 難民問題を考える (2) 外国人労働者との共生を考える (3) 自動運転技術を考える (4) 地球環境問題、資源エネルギー問題を考える (5) 国際経済格差の是正と国際協力を考える (6) 持続可能な平和のあり方を考える	予定	9
後 期			
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「涵養（かんよう）」とは？ → 水が自然に染みこむように、無理をしないでゆっくりと養い育てること。</li> <li>・共通テスト「政治・経済」を受験する生徒は、個別対応も実施します。特に、国内政治・経済分野については、「公共」の復習を兼ねて演習をおこなっていきます。</li> </ul>		

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	公民	科目名	公共
学年(コース)	第1～3学年（普通・夢トライコース）	単位数	2
使用教科書	高等学校 公共 これからの社会について考える	出版社	数研出版
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸問題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付ける。</li> <li>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</li> <li>よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>		
	項目	趣 旨	評価方法
評 価 の 観 点	知 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業構造の変化と職業選択との関係や、雇用・労働問題について理解する。</li> <li>市場経済のメカニズムや各種経済指標、金融の仕組み等を通して各種経済指標の動向を読み解いたり、経済状況に応じて適切な手段の提示方法について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>小テスト</li> <li>課題の提出状況</li> <li>定期考査</li> </ul>
	技 能	<ul style="list-style-type: none"> <li>需給曲線を使った価格変動の条件や、GDPと豊かさの関連性を多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>経済のグローバル化と相互依存関係の関連性や現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容を発言や発表などによって表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>発問に対する答え</li> <li>小テスト（資料読みとり）</li> <li>定期考査</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの日常生活が国際社会と不可分であることや、格差のある国際社会でその解決や克服方法などを学習上の課題とし、主体的に主題や問いを設け、考察、構想する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>授業プリント</li> <li>発問に対する答え</li> <li>課題の提出状況</li> </ul>

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・「公共」は、わたしたちが自立した主体としてよりよい社会形成に参画するとともに、持続可能な社会づくりの主体になるために学ぶ科目です。
- ・授業では、単に答えを求めるだけでなく、経済に関する内容と関連付けながら主題学習として問いを追究しその解決に至ることが重要になります。そのためには、日々の生活で新聞やニュースを参考にしながら、自分なりの疑問や意見を持ち、それを他者と協働しながら育てていくことが大切になります。

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 第5章 経済活動を行う私たち 第1節 経済のしくみと産業の変化 第2節 市場経済のしくみと金融	予定	16
	第2回 第5章 経済活動を行う私たち 第3節 財政と社会保障 第4節 国際経済の動向と課題 2 戦後の国際経済体制	予定	12
後 期	第3回 第5章 経済活動を行う私たち 第4節 国際経済の動向と課題 3 グローバル化と現代の国際経済 ～5 南北問題とその課題 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	予定	11
	第4回 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2節 現代の諸課題と倫理	予定	10
備 考			

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	数学		科目名	数学 A	
学年(コース)	第3学年（普通コース・夢トライコース）		単位数	3	
使用教科書	最新 数学 A		出版社	数研出版	
目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図るとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。また、具体的な事象の考察を通して場合の数と確率、整数の性質について理解する。				
評価の観点	項目	趣 旨		評価方法	
	知識	各分野において基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に表現、処理する方法や推論などの技能を身につけている。		小テスト 課題の取組状況 定期考査の成績	
	技能	各分野において事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考える。各分野における数学的な見方や考え方を身につけ、表現する。		課題の取組状況 定期考査の成績	
	主体的に学習に取り組む態度	各分野に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとする。粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。		行動観察 課題の取組状況	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題集に計画的に取り組むなど、復習を積極的に行うこと。</li> <li>・授業中は「聞く」「考える」「書く（解く、写す）」のメリハリをつけ、プリント・ファイルをきちんと整理すること。</li> <li>・演習問題には積極的に取り組むこと。</li> <li>・与えられた課題は提出期限を厳守すること。</li> <li>・定期考査などの受験後は、間違えたところを訂正し、理解を深めること。</li> </ul>					

## 年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	計算の基礎の演習 第3章 数学と人間の活動	予定	23
	第2回	計算の基礎の演習 第3章 数学と人間の活動	予定	21
後 期	第3回	計算の基礎の演習 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	予定	11
	第4回	計算の基礎の演習 第1章 場合の数と確率 第2節 確率	予定	15
備 考				

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	数学	科目名	数学B	
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライコース）		単位数	3
使用教科書	最新 数学B		出版社	数研出版
目標	数列、統計的な推測について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考える資質・能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法	
	知識 技能	・各分野において基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に表現、処理する方法や推論などの技能を身につけている。	・活動状況 ・小テスト ・課題の取組状況 ・定期考査の成績	
	思考 判断 表現	・各分野において事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えている。 ・各分野における数学的な見方や考え方を身につけ、表現している。	・活動状況 ・課題の取組状況 ・定期考査の成績	
	主体的に 学習に 取り組む 態度	・各分野に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしている。 ・粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	・活動状況 ・課題の取組状況	

## 授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・問題集に計画的に取り組むなど、復習を積極的に行うこと。
- ・授業中は「聞く」「考える」「書く（解く、写す）」のメリハリをつけ、プリント・ファイルをきちんと整理すること。
- ・演習問題には積極的に取り組むこと。その際、授業で説明されたことや例題の書き方を参考に自分で考えること。
- ・与えられた課題は提出期限を厳守すること。
- ・定期考査などの受験後は、間違えたところを訂正し、理解を深めること。答えを写すだけでなく、公式や考え方を確認すること。

## 授業計画

区分	授業内容等		授業時数	
前期	第1回	第1章 数列 第1節 数列とその和	予定	23
	第2回	第1章 数列 第2節 漸化式と数学的帰納法	予定	21
後期	第3回	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	予定	11
	第4回	第2章 統計的な推測 第2節 統計的な推測	予定	15
備考				

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	数学	科目名	数学C	
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライコース）		単位数	2
使用教科書	最新 数学C		出版社	数研出版
目標	ベクトル、複素数平面、式と曲線について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考える資質・能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法	
	知識 技能	・各分野において基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に表現、処理する方法や推論などの技能を身につけている。	・活動状況 ・小テスト ・課題の取組状況 ・定期考査の成績	
	思考 判断 表現	・各分野において事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えている。 ・各分野における数学的な見方や考え方を身につけ、表現している。	・活動状況 ・課題の取組状況 ・定期考査の成績	
	主体的に 学習に 取り組む 態度	・各分野に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしている。 ・粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	・行動観察 ・課題の取組状況	

## 授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・問題集に計画的に取り組むなど、復習を積極的に行うこと。
- ・授業中は「聞く」「考える」「書く（解く、写す）」のメリハリをつけ、プリント・ファイルをきちんと整理すること。
- ・演習問題には積極的に取り組むこと。その際、授業で説明されたことや例題の書き方を参考に自分で考えること。
- ・与えられた課題は提出期限を厳守すること。
- ・定期考査などの受験後は、間違えたところを訂正し、理解を深めること。答えを写すだけでなく、公式や考え方を確認すること。

## 授業計画

区 分	授業内容等		授業時数	
前 期	第1回	第1章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形	予定	17
	第2回	第1章 ベクトル 第3節 空間のベクトル 第2章 複素数平面	予定	14
後 期	第3回	第2章 複素数平面 第3章 式と曲線 第1節 2次曲線	予定	10
	第4回	第3章 式と曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	予定	10
備考				



## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	化学基礎
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	高等学校 化学基礎		出版社 第一学習社
目 標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
	項目	趣 旨	評価方法
	知 識	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	単元テスト (小テスト) 定期考査 課題
	技 能	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	単元テスト (小テスト) 定期考査 課題
評 価 の 観 点	思考 判 断 表 現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	単元テスト (小テスト) 定期考査 課題
	主体的に 学習に 取り組む 態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	課題の提出状況 授業態度
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業には積極的に参加し、自主的に探究、発言すること。</li> <li>・ 課題および提出物の期限を守ること。</li> <li>・ 観察や実験は、班で協力して安全に行うこと。</li> <li>・ 授業プリントはノートに貼って整理すること。</li> <li>・ 小テストは定期考査への取り組みとなるので、何度も学習すること。</li> </ul>			

## 年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式	予定	15
	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式		
後 期	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式	予定	14
	第2章 物質の変化 第2節 酸と塩基のその反応		
	第2章 物質の変化 第3節 酸化還元反応	予定	10
	終章 化学が拓く世界		
備 考			

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	生物基礎
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	高等学校 新生物基礎		出版社 第一学習社
目 標	<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>		
	項目	趣 旨	評価方法
評 価 の 観 点	知 識	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	単元テスト (小テスト) 定期考査 課題
	技 能		
	思 考 判 断 表 現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	単元テスト (小テスト) 定期考査 課題
	主体的に 学習に 取り組む 態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	課題の提出状況 授業態度
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業には積極的に参加し、自主的に探究、発言すること。</li> <li>・ 課題および提出物の期限を守ること。</li> <li>・ 観察や実験等は、互いに協力して安全に行うこと。</li> <li>・ 授業プリントはノートに貼って整理すること。</li> <li>・ 単元テストは定期考査への取り組みにもなるので、予習・復習を行うこと。</li> </ul>			

## 年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 からだの調節と情報の伝達 ・恒常性 ・神経系 ・自律神経系 ・ホルモン	予定	17
	第1節 からだの調節と情報の伝達 ・血統濃度調節 ・体温調節 ・血液の働き	予定	14
後 期	第3章 ヒトのからだの調節 第2節 免疫	予定	10
	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	予定	10
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	理科課題研究
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	なし		出版社 なし
目標	科学に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技能の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		
授業内容・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内外の科学に関する課題を設定する。</li> <li>・設定した課題に対して、仮説を立て、問題解決に努める。</li> <li>・問題解決の中で、専門的な知識、技能の深化及び総合化を図る。</li> <li>・問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。</li> </ul>		
評価方法	課題提出状況、授業の出席状況及び関心・意欲・態度について総合的に評価を行う。ただし、定期考査は実施しない。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	関心意欲態度	設定した課題に対して、探究心を持ち、意欲的に課題解決のため探究するとともに科学的な態度を身に付ける。	授業の取り組み 提出課題の内容
	思考判断表現	校内外の中に課題を見出し、実証的、論理的に仮説を考えたり、分析的、総合的に考察したりして、問題解決のための科学的な判断をする。	授業の取り組み 提出課題の内容
	技能	課題の問題解決に関する技能を習得、深化させるとともに科学的に探究する方法を身に付ける。	授業の取り組み 提出課題の内容
	知識理解	課題の問題解決に関する観察・実験などを通して、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	授業の取り組み 提出課題の内容

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を設定し、仮説を立て、見通しをもった研究を行うこと。</li> <li>・自主性を持ち、工夫するとともに、常に思考をはたらかせること。</li> <li>・正確な記録と視野の広い考察を行うこと。</li> <li>・提出期限を厳守すること。</li> </ul>

授業計画

区 分	授業内容等		授業時数	
前 期	第1回	課題の設定 ・校内外の問題に目を向ける ・仮説を立て、見通しを立てる	予定	17
	第2回	課題の問題解決 ・基礎的な概念や原理・法則の習得 ・技能の取得、深化	予定	14
後 期	第3回	課題の問題解決 ・基礎的な概念や原理・法則の習得 ・技能の取得、深化	予定	10
	第4回	総合的まとめ	予定	10
備 考				

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	保健体育	科目名	体育
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	現代高等保健体育		出版社 大修館書店
目 標	運動の成功体験を通じて、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けさせ、自己や仲間の課題を発見し、その解決に向けて思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える能力を育てる。		
	また、運動における競争や協働の経験を通して、公正・協力・自己の責任を果たす・参画する、一人一人の違いを認め大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって、運動に親しむ態度を育てる。		
評 価 の 観 点	項 目	趣 旨	評価方法
	知 識	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	・競技の記録表 ・ルールテスト ・実技テスト ・活動の観察
	技 能	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・個人ノート ・班ノート ・競技の記録表 ・自己評価表
	思 考 判 断 表 現	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・個人ノート ・班ノート ・競技の記録表 ・自己評価表
	主体的に 学習に 取り組む 態度	・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。	・授業の取り組み ・出席状況 ・忘れ物など ・個人ノート ・自己評価表 ・活動の観察
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目の楽しさや喜びを味わえるように主体的・積極的に活動し、お互いに協力し合いながら練習やゲームを行うこと。</li> <li>・健康安全に留意し、積極的に練習やゲームに取り組むこと。自己（チーム）の能力に応じて戦術や技術を設定し、課題解決のために効果的な方法を工夫して取り組むこと。</li> <li>・ねらいや計画、内容が密接に関連した班ノートを作成し、実践すること。</li> </ul>			

## 年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 体育理論 体づくり運動 武道・球技から選択 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・柔道)	予定	16
	第2回 武道・球技から選択 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・柔道) 陸上競技・ダンスから選択 (陸上競技：跳躍・投てき)	予定	9
後 期	第3回 体育理論 球技 (バドミントン・バレーボール・卓球・ソフトボールから選択) 陸上競技（競走）	予定	11
	第4回 体づくり運動 体育理論 球技 (バスケットボール・サッカー・ラグビーから選択)	予定	10
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	体育	科目名	スポーツVI
学年(コース)	第 3 学年 (普通・夢トライコース)	単位数	2
使用教科書	現代高等保健体育	出版社	大修館書店
目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していくとともに、スポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育てる。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知 識	運動の意義や必要性を理解し、知識を身に付けている。自己の能力に応じ、体力を高めるための合理的な運動の方法を身に付けている。また、個人の生活及び社会生活における健康・安全について課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	記録表 活動観察 実技テスト
	技 能	自己の能力に応じ、合理的な運動の実践や計画的な活動の仕方を考え工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について課題の解決を目指して考え判断している。	個人ノート作成 運動プログラム作成 記録表 自己評価表
	思 考 判 断 表 現	自己の能力に応じ、合理的な運動の実践や計画的な活動の仕方を考え工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について課題の解決を目指して考え判断している。	個人ノート作成 運動プログラム作成 記録表 自己評価表
	主体的に 学習に 取り組む 態度	自ら進んで計画的に健康増進・体力向上に必要な運動を取り入れ、健康・安全に関心を持ち、意欲的に活動し生涯にわたり運動を継続しようとしている。	出席状況 授業への取り組み 忘れ物や出席状況など 活動観察
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体力を知り、それに適した運動をきちんと計画的に選択すること。</li> <li>・体力トレーニングは真面目に取り組むこと。授業には誠実な姿勢で取り組み、提出物については期限を厳守すること。</li> <li>・球技については自分の目標を立てて、練習にのぞむこと。・定期考査前には、必ず記録表を提出すること。</li> </ul>			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 1. 体力トレーニングの目的 (球技) ネット型〈バドミントン・卓球〉 (球技) ゴール型〈バスケット・フットサル〉 * 球技は上記より選択	予定	17
	第2回 2. 目的別に見た体力トレーニングの方法 (球技) ネット型〈バドミントン・卓球〉 (球技) ゴール型〈バスケット・フットサル〉 * 球技は上記より選択	予定	11
後 期	第3回 3. 運動によるけが・病気の予防 (球技) ネット型〈バドミントン・卓球〉 (球技) ゴール型〈バスケット・フットサル〉 * 球技は上記より選択	予定	11
	第4回 4. 運動の計画的な学び方 (球技) ネット型〈バドミントン・卓球〉 (球技) ゴール型〈バスケット・フットサル〉 * 球技は上記より選択	予定	8
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	芸術	科目名	音楽総合
学年(コース)	第3学年（普通コース）		単位数 2
使用教科書	高校生の歌集つどい		出版社 啓隆社
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり等について理解を深め、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</li> <li>・ 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価したりしながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。</li> <li>・ 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</li> </ul>		
	項目	趣 旨	評価方法
評 価 の 観 点	知 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲想や表現上の効果と構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果等を深く理解している。</li> <li>・ 音楽を形づくっている要素等について、音楽における働きと関わらせて理解している。</li> <li>・ 創意工夫や表現上の効果を生かした表現をするために必要な技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技評価</li> <li>・ 小テスト等</li> </ul>
	技 能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。</li> <li>【表】 知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに表現を創意工夫している。</li> <li>【鑑】 知識を総合的に働かせながら、曲に対する評価とその根拠等を考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業態度</li> <li>・ ワークシート等</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価</li> <li>・ 授業態度等</li> </ul>

<p>授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽の“よさ”は自ら見つけようとしましょう。</li> <li>・ 遠慮せず積極的に発言や記入をしましょう。</li> <li>・ 歌唱や演奏など表現活動に取り組む時は“意図”をもちましょう。</li> <li>・ 他人の表現は決して笑わず、尊重しましょう。</li> <li>・ 楽譜には積極的に“書き込み”をしましょう。</li> </ul>
---

年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	歌唱 日本の歌 器楽 リズムアンサンブル	予定	16
	第2回	歌唱 日本の歌 器楽 バンドアンサンブル	予定	10
後 期	第3回	歌唱 合唱、日本の歌 鑑賞 西洋音楽	予定	10
	第4回	歌唱 合唱、日本の歌 器楽 バンドアンサンブル	予定	13
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表記しているほか、読譜の練習などの基礎的な音楽理論や、歌唱の学習と関連した鑑賞の活動にも取り組みます。</li> </ul>			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	芸術	科目名	音楽実技
学年(コース)	第3学年（選択）		単位数 2
使用教科書	グローバー・ピアノ教本〈VOL.1〉		出版社 ヤマハ
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現（ピアノ演奏）するために必要な技能を身に付ける。</li> <li>・ 音楽性豊かな表現について考え、表現意図をもつことができるようになる。</li> <li>・ 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。</li> <li>・ 視唱、視奏及び聴音に関する知識や技能を身に付ける。</li> </ul>		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲想、音楽の構造などについて理解することに加え、それら相互の関わりや、文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技評価</li> <li>・ 小テスト等</li> </ul>
	技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視唱、視奏及び聴音に関する知識を身に付けている。</li> <li>・ 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能等、自分の表現意図を表すために必要な技能を身に付けている。また、視唱、視奏及び聴音に関する技能を身に付けている。</li> </ul>	
	思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フレーズや楽曲全体をどのように演奏するか、他の楽器や声部との関わり合いをどのように表現するか等について考えている。</li> <li>・ 知識や技能を得たり生かしたりしながら、表現を創意工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート等</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価</li> <li>・ 授業態度等</li> </ul>

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・ 音楽の“よさ”は自ら見つけようとしましょう。
- ・ 遠慮せず積極的に発言や記入をしましょう。
- ・ 歌唱や演奏など表現活動に取り組む時は“意図”をもちましょう。
- ・ 他人の表現は決して笑わず、尊重しましょう。
- ・ 楽譜には積極的に“書き込み”をしましょう。
- ・ うまく演奏できない時は、“なぜできないか”を考えましょう。

年間授業計画

区分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 ピアノ（独奏・合奏） ハ長調・ヘ長調・ト長調の練習 小品の演奏	予定	18
	第2回 ピアノ（独奏・合奏） 小品の演奏	予定	8
後期	第3回 ピアノ（独奏・合奏） ペダルの使い方 小品の演奏	予定	12
	第4回 ピアノ（独奏・合奏） 小品の演奏（アンサンブル含む）	予定	9
備考	年間を通して、高音部記号・低音部記号・移調・視唱・視奏・聴音等の基礎的な音楽理論やソルフェージュにも取り組みます。		

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションⅡ
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライコース）		単位数 3
使用教科書	All Aboard! English Communication II		出版社 東京書籍
目 標	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、		
	1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。		
	2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。		
	3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。		
	4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。		
5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。			
評 価 の 観 点	項目	趣 旨	評価方法
	知 識	・英文を正確に理解して、情報や根拠を見つけることができる。	・定期考査
	技 能	・学んだことを踏まえて、新たな課題を発見・解決しようとするすることができる。 ・学習の仕方を振り返り、改善することができる。	・プリント等 ・小テスト ・振り返りシート
	思 考 判 断 表 現	・課題解決に向けて、他者と協働することができる。 ・場面や状況に応じて適切に対応することができる。 ・目的に応じて工夫をしながら伝えることができる。	・定期考査 ・振り返りシート ・観察
	主体的に 学習に 取り組む 態度	・目標に向けて努力を継続することができる。 ・自己や社会の課題解決に自ら取り組もうとしている	・定期考査 ・振り返りシート ・観察
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に自主的に発言するなど積極的に取り組むこと。</li> <li>・授業で用いるプリント類をきちんと整理し、丁寧にノートに記入すること。</li> <li>・課題に確実に取り組み、提出期限を守ること。</li> <li>・定期考査後は復習テストに真剣に取り組むこと。</li> <li>・単語テストや音読テストなどに向けて継続的に努力すること。</li> </ul>			

## 年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 All Aboard! English Communication II Lesson 6 Word Box 4 All Aboard! English Communication II Lesson 7 英単語・熟語テスト (VALUE1000)	予定	25
	第2回 All Aboard! English Communication II Lesson 8 Reading 1 英単語・熟語テスト (VALUE1000)	予定	21
後 期	第3回 All Aboard! English Communication II Lesson 9 Reading 2 英単語・熟語テスト (VALUE1000)	予定	13
	第4回 All Aboard! English Communication II Lesson 10 Word Box 5 英単語・熟語テスト (VALUE1000)	予定	15
備 考			



授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	英語	科目名	論理表現Ⅱ
学年(コース)	第3学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	VISTA Logic and Expression Ⅱ		出版社 三省堂
目標	「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</li> <li>外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の活動への取り組み状況</li> <li>インタビューテスト・発表（スピーチ・プレゼンテーション）・ディベート等</li> <li>ノート・ワーク・レポート等の提出物</li> <li>小テスト・定期考査等のペーパーテスト</li> </ul>
	技能		
	思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。</li> <li>外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。</li> </ul>	
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解しようとしている。</li> <li>外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> <li>他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</li> </ul>	

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・間違いを恐れず、積極的に表現し、発表すること。
- ・プリント類をきちんと整理し、予習・復習を行うこと。
- ・授業で出てきた例文を暗唱し、表現の幅を広げること。
- ・ペアワークなどの活動を通して、授業中になるべく多く話すこと。

年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	Lesson 1~4 ・時制（現在形・過去形など） ・不定詞 ・前置詞 ・受動態	予定	17
	第2回	Lesson 5~6 ・動名詞 ・比較級 ・助動詞①（can など）	予定	14
後 期	第3回	Lesson 7~9 ・分詞 ・数を表す表現 ・形容詞 ・副詞 ・that 節 ・関係副詞	予定	10
	第4回	Lesson 10 ・ ・関係代名詞 ・助動詞②（should など）	予定	10
備 考				

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	
学年(コース)	第3学年（選択）		単位数	2単位
使用教科書	フードデザイン		出版社	実教出版
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>			
	項目	趣 旨	評価方法	
評価の観点	知識	・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント</li> <li>・授業、実習への参加</li> <li>・定期考査</li> </ul>	
	技能			
	思考判断表現	・多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント</li> <li>・実習への参加</li> <li>・定期テスト</li> </ul>	
	主体的に学習に取り組む態度	・人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント</li> <li>・授業、実習への参加</li> <li>・課題の提出</li> </ul>	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物は必ず、期限までに確実に提出をして下さい。</li> <li>・調理実習のときには、エプロン、三角巾、タオルを忘れずに持って来て下さい。</li> <li>・調理実習のときには、前の時間の授業が終わったら、調理室にすばやく移動し、遅れないように来て下さい。</li> <li>・衛生面、安全面に気をつけて実習を行って下さい。</li> </ul>				

## 年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 第1章 食生活と健康 第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 栄養素のはたらき 第4章 調理と基本 ≪実習≫ ・調理の基本（計量・切り方） ・日常食の調理	予定	17
	第2回 第2章 栄養素のはたらきと食事計画 2節 ライフステージと栄養 3節 食事摂取基準と食事計画 第6章 フードデザイン実習 ≪実習≫ ・日常食の調理 ・各種コンクールに向けて	予定	14
後期	第3回 第3章 食品の特徴・表示・安全 第6章 フードデザイン実習 ≪実習≫ ・日常食の調理 ・食品の性質を知るための実験 ・文化祭に向けての調理	予定	10
	第4回 第5章 料理様式とテーブルコーディネート 第6章 フードデザイン実習 ≪実習≫ ・行事食の調理 ・日常食の調理	予定	10
備考			

## 授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	商業		科目名	ビジネス・コミュニケーション	
学年(コース)	第3学年（選択）		単位数	2	
使用教科書	ビジネス・コミュニケーション		出版社	実教出版	
目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり身につける。</p> <p>(1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。</p> <p>(2) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
評価の観点	項目	趣 旨		評価方法	
	知識	・実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。		定期考査 小テスト 課題	
	技能	・ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する成功事例や改善を要する事例などについて、工夫してよりよく解決する力を養っている。		定期考査 ワークシート 課題	
	主体的に学習に取り組む態度	・自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築してビジネスにおいて積極的にコミュニケーションを図る態度を養っている。		ワークシート 小テスト 課題 授業への取り組み	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はしっかり顔を上げて聞き、内容を理解するよう努めましょう。</li> <li>・実習やロールプレイングには、実際の場面を思い描きながら意欲的に取り組みましょう。</li> <li>・この授業では、社会人としての基礎基本を学びます。しっかりと習得し、将来就職した時に発揮できるよう、積極的に学びましょう。</li> </ul>					

## 年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	1章 企業の組織と人間関係 2章 応対に関するビジネスマナー 1 挨拶 2 身だしなみ・表情・身のこなし 3 言葉遣い	予定	18
		2章 応対に関するビジネスマナー 4 名刺交換と紹介 5 訪問・来客の応対 6 電話の応対		
後 期	第3回	2章 応対に関するビジネスマナー 7 席次のマナー 3章 交際に関するビジネスマナー	予定	14
		4章 接客に関するビジネスマナー		
備 考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	商業	科目名	商品開発と流通
学年(コース)	第3学年（夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	商品開発と流通	出版社	実教出版
目 標	<p>実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>(2) 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
	項目	趣 旨	評価方法
	知 識	・商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。	・定期考査 ・小テスト ・課題
	技 能	・商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。	・定期考査 ・ワークシート ・課題
評 価 の 観 点	思考 判 断 表 現	・商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。	・定期考査 ・ワークシート ・課題
	主体的に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	・自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり責任をもって取り組もうとしている。	・ワークシート ・小テスト ・課題 ・授業の取り組み
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はしっかり顔を上げて聞き、内容を理解すること。</li> <li>・習得した内容を地域創造IIの授業で十分発揮できるよう、授業中にはメモを取ったりアイデアを書き留めたりするなどして積極的に取り組もう。</li> </ul>			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 1章 商品開発と流通の概要 2章 商品の企画	予定	16
	第2回 3章 事業計画の立案	予定	12
後 期	第3回 4章 商品の開発	予定	10
	第4回 5章 商品の販売 6章 商品開発と流通に関わる新たな展開	予定	10
備 考			